



孝子のあつたが通信

発行責任者：塩原孝子 連絡先：松本市寿北5-15-27 Email：takako092@outlook.jp ☎0263-27-1122 (共産党)

Q子.. どうして米がスーパーから消えたのでしょうか？

孝子 気候変動による猛暑や南海トラフ地震への不安などで需要と供給のバランスが崩れたとされていますが、実は長く続いた減反政策と再生産できない農家所得を放置した結果です。米作りをする農家が減り生産量も減り続けている実態があるんです。現在の農家の年齢が70歳手前が中心で、あと5年10年で農家は激減し、天候のせいだとかで誤魔化せない状況が発生します。

Q子.. 国が農業政策を放棄して、米作りを市場に丸投げしたと言えますか？

孝子 その通りです。95年までは食糧管理法によって米の



主食のコメを守ることは、いのちを守ることに暮らしを支える政治こそ私たちの望み

「コメが買えない！今年は大丈夫？」

昨年春先から米不足が表面化し、夏以降にはスーパーから消える事態に。国は子ども食堂などの他には備蓄米を出しませんでした。食糧危機が心配されているなかで、いのちを支える主食の米不足に不安が広がっています。Q子さんと考えてみました。

国内生産と流通を政府が管理していました。ところが94年政府はWTO協定で合意し、輸入自由化を受け入れました。最低輸入量として玄米換算76.7万トンが無関税輸入しています。

Q子.. 政府が備蓄米を出さないのはなぜでしょうか？

孝子 「足りなければ輸入すればいい」というのが政府の考え方だからです。昨年末の財政審議では「農業予算は削れ、輸入に頼れ」と自給率向上も投げ捨てたんです。その一方で2025年防衛予算(戦闘機、米軍基地関連等)が史上最大の8.7兆円(怒)。暮らしを支える政治に変えていきましょ。



参議院選挙(7月)で「いのち」を守る日本共産党と立憲野党を大きくしよう

塩原孝子(日本共産党)はこう考えます

- ①米不足を生じさせない盤石な生産体制の構築を！
- ②食糧安保の観点からも税金投入を！
- ③稲作は治水機能を持ち、景観や文化の基。日本では農民が無償で守っている、その多面的機能の理解と大幅な所得補償の実施が必要。
- ④松本市は臥雲市長の元で農政部を廃止(産業振興部へ)。農業支援が必要な時代の要請と逆行。

声が届きました(#`D´)

商品として出す米がなくなっているなんて、背筋が寒くなります。時代に逆行している自民党の政策は淘汰されないとい...

お米が買えない子育てのお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが苦労しました。

米騒動です。米どころの安曇野、松本ですらスーパーの棚に米がない。何処かで誰かが操作しているのかもしれない。パン食が多くなっているとはいえない。瑞穂の国の主食は米です。



暮らしに寄り添う市政を

25年度の政策・予算要望

共産党市議団は松本市長に対し、暮らし、営業、教育、介護、医療、等20項目106点にわたる政策予算要望を行いました。

市民と共産党市議団が求めて実現した子どもの医療費完全無償化や、水道基本料金減免、介護保険料の引き下げなどの施策を評価しつつさらなる地方自治の充実で暮らしの安心を求めました。

マイナ保険証については、松本市は資格確認書をすべての市民に発行し、無保険者がでないように再度要望しました。



子どもの医療費完全無償化

長い市民の運動が実って、今年の1月から子どもの医療費は完全無償です。今までは例えばインフルエンザにかかれば医療機関で500円 薬局で500円。兄弟に感染してまた同じ様に支払い…。これからはお金の心配なく安心して治療を受けられます。



12月議会を振り返って

被団協がノーベル平和賞を受賞した直後であり、犬飼明美議員は一般質問で改めて市長の核兵器禁止条約批准への考えを聞きました。相変わらずアメリカの「核抑止論」に依存するもので、大変残念な答弁でした。

「ゴミ有料化」についての質問した他会派議員にはR10年度を目途に検討したいと応じました。

閉会日の市長は5852万円かけたお城のプロジェクトマンピングのアプリで、物価高で悲鳴をあげている市民感情からかけ離れていました。「暮らしに寄り添う」というキーワードがなく残念でした。

未満児保育の保育料軽減先送り

なぜ松本市だけ

私は3人の子供を育てています。年の差のある3兄弟のため、第2子や第3子であっても保育園の同時通園の条件を満たせず、所得に応じた満額の未満児保育料を納める制度に疑問を感じていました。また、今年度から開始された県の多子世帯向け未満児保育料補助事業が、松本市だけ実施が遅れていることに不平等さを感じ、市政に問いかけようと、子育て支援に力を入れている塩原議員に相談し、12月定例会での請願提出に至りました。

委員会審査で市はやらない理由ばかり述べて、子育て世帯の期待を裏切る不誠実で残念なものでした。

その後の定例会議決では、2票足らず惜しくも否決されましたが、私たちの請願に13名という多くの議員が賛同してくださったことも事実です。

あと少し、私たちが頑張れば、1,000名弱の当事者世帯を救うことができるかもしれないと思い、2月定例会で再度、市政へこの問題を投げかけていこうと考えています。

そのための署名をはじめました。

(請願者代表:T)

長野県は今年度6億円あまりの予算をつけ、各自治体が枠を広げて、今まで対象外だった未満児も無償化するように呼びかけていました。



これを受けて県下19市中松本市以外が今年度から第2子から半額もしくは無償化を実施。4月に遡り保育料を返還する自治体もあります。県下77自治体では70自治体の実施をしています。

松本市長は公約を反故にして、H7年度の4月からの実施に先送りしました。未満児を育てるママ達から「多子世帯等保育料軽減拡充支援」実施開始時期の見直しを求める請願書」が出されました。

高い保育料に加え、ミルクやオムツの値上がりもあり、家計のやりくりで苦労しているママ達からは市政に対する不信や憤り・怒りが伝わってきました。

最低でも県と足並みをそろえた子育て支援を求めているママたちを応援していきます。

「学びたい」を応援

奨学金貸与基準改善へ

松本市育英資金
奨学金は経済的な理由により高等学校での修学が困難な生徒を支援する制度です。公立高校は月額7千、私立は月額1万円、入学金は公立は10万円、私立は20万円貸与されます。



対象者の認定にあたり、学力点を基準から外す事を2月議会の一一般質問で求めています。12月議会でも条例改正案が出され、学力点を無くすことになりました。「学びたい」を応援する市政に一步前進。

お金の心配なく学びたい

私が高校に合格してまず最初に困ったのは入学金の支払いです。3人暮らしですが親が病気があったりするため働けておらず収入がないため支払いが困難でした。さらに毎月学校に払うお金が高く、3年間続けられるかわからない状況です。高校に行けたことはいいものの払う金額を見るたびに不安になります。

いくつかの所から奨学金を借りているため卒業したのち返済するのは大変な気がします。

一番望ましいのは返済不要の奨学金がもっと多くなればいいと思います。たとえそれができなくても気軽に学校に行けるようにお金に困っている人が助かる制度があると嬉しいです。

高校生Aさん(松本市在住)

松本市街の魅力や課題を発見

高校との交流事業から



梓川高校の生徒さんと、中心市街地をフィールドワークして道行く人に松本街の魅力をお聞きしました。四賀地区にお住まいの方は、日本の原風景のような場所が気に入って県外

から移住して来られたとのこと。
井上百貨店の副店長さんからは閉店の後の営業や地域のお店と一緒に開発して販売してきた商品の紹介等がありました。地元根ざした百貨店だということを確認しました。
高校生はパルコには行ったことがあるけれど井上は初めて入った子が全員でした。



エクセラシオン高校ではグループに分かれて意見交換をしました。
高校生はパルコには行ったことがあるけれど井上は初めて入った子が全員でした。
高校生はパルコには行ったことがあるけれど井上は初めて入った子が全員でした。
高校生はパルコには行ったことがあるけれど井上は初めて入った子が全員でした。



職員が配置されない!

地域に根差した包括支援センターは市内12カ所もあり、そこは高齢者の総合相談窓口にもなっています。

本来は市が直営で運営すべきものですが、全て民間委託されています。

職員は保健師、

福祉入浴券 値上げになったら困る

「お風呂券」を廃止しないでの声を議会に届けてきました。
継続になったものの市は自己負担増を検討しています。物価高騰の今だからこそ、現状維持の金額を求めたいきます。



生活保護の改善

生活保護利用者の車使用は地域交通事情や世帯状況にかかわらず厳しい規制があります。厚労省通知により、通院限定で障がい者に認められていた車使用が日常生活でも利用できるようになりました。

社会福祉士、主任ケアマネジャーの常勤専門職が配置基準です。ところが人材確保が困難な場合はこの基準を緩和できるという条例にされました。
共産党市議団は、市が人材確保をもっと支援し、委託料を引き上げることで法人が受託しやすいようにするべきではないかと求めました。常勤の専門職がいなくなれば、市民サービスの質は低下します。

活動日誌

平和・暮らし・福祉の願いを
実現する年に！



新年の宣伝を松本駅前で行いました。松本市議団で行いました。昨年の総選挙で自公過半数割れにすることが出来、政治の流れが変わってきました。

平和、暮らし、福祉、生業の願いを実現するチャンスと訴えさせてもらいました。二人の若者が話を聞いてくれて、写真まで撮ってくれました。



子どもの権利条約批准から30年
子育て環境を守るため力を合わせよう

松塩筑地区教育談会に参加しました。

子どもの権利条約を日本は批准してから30年の節目になりますが、子どもの権利が充分に守られていないのではないかと問題提起がありました。

特別な支援を受ける子どもや不登校の子どもの増加、教員不足と多忙化など様々な課題が教育分野に横たわっています。子ども達を真ん中に保護者、教員、地域と一緒に子ども達を育てていくことが今一番大事ではないかとつくづく思いました。

ちなみに日本の教育予算は先進国最低レベルです。ここにも目を向けていく必要があります。



並柳団地 秋のつどい

毎年恒例で開催している秋のつどい。今回も大勢の方に参加して頂け支援物資をお渡しすることが出来ました。市内4か所どこも盛況でした。物価高騰で生活が厳しいという声を沢山お聞きしました。



暮らしの相談から

相談 蟻ヶ崎の急坂の途中にあるお宅からの除雪車の相談がありました。雪が降っても近所が高齢化していて雪かきが出来なくなり、怖くて外出が出来ない。除雪車が来てくれないかという相談

対応

「建設維持課」に問い合わせたところ2次路線で基本的には除雪車が出動できる路線だが、急坂で危険を伴うために融雪剤の散布車を出すようにするという回答でした。

若い方がいない町会では雪かきの課題があることが分かりました。



松本市発行の「除雪ガイド」をご参照下さい

相談 自転車の乗り方や自転車レーン等、分かりやすく市民に周知してほしい。自転車とぶつかりそうになり怖い時があるという相談

対応

「自転車推進課」に要望しました。市内の公立高校には順番に交通安全教室を開催しているようですが、市民向けに分かりやすく周知をお願いします。



相談 年金が少なく今まで働いていたが、働けなくなつて経済的に困つたという70歳代の方から生活保護の相談

対応

生活保護申請はもう済んでいましたが、一回で申請が出来ず二度市役所に出向いたことが分かりました。自宅での訪問調査が不安ということで立ち合い、安心して調査を受けることが出来ました。



ほっとひといき

健康友の会のポールウォーキングに参加。庄内公園でストレッチをしてから公園を一回りして、弘法山の下の辰の子太郎の像まで足を伸ばしました。ちよど山の紅葉がきれいに色づいている時期でしたので、景色を眺めながらのウォーキングが楽しめました。仲間とおしゃべりしながら歩くことは楽しく、ポールを使うと背中が伸びて姿勢が良くなる気がしました。

